

ひやく しやく かん とう 百尺竿頭

札幌市青少年山の家便り
第 13 号
平成 23 年 8 月 1 日 発行

札幌市青少年山の家
社会教育専門職 工藤茂広

共に生きる力を養う「荒天プログラム」

由来荒天とは、晴天に対する語です。野外活動においては時に、積極という語に対する消極というような意味を伴って用いられているかもしれません。それゆえか、常に積極的な野外活動という相対比較を考量の中心とし、知らず知らずのうちに消極的な代替屋内活動となる傾向が顕著にあります。

もとより、札幌市青少年山の家が野外教育施設だからといって、屋内活動を否定しているわけではありません。札幌市教育推進の目標「未来を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる自立した札幌人」の下、当施設の活動が、あくまでもその目標達成にとって欠かすことのできない教育であるかを自問しているのです。

そこで本稿では、代替屋内活動と荒天下の野外活動という両面から、荒天プログラムの教育的意義を考えてみます。

1 代替屋内活動

既述のとおり、代替屋内活動は消極的になりがちであり、せつかく把持していた意欲は崩壊の憂き目に逢着します。もちろんこれは、利用者側だけの責任ではありません。むしろそこには、そのような実態を自覚しつつも、屋内活動を想定することが不得手な提供者側の消極性が横たわっていると言えるかもしれません。

屋内活動は、空間的な制約から、直接的な言語活動機会が自然に増します。折しも新学習指導要領においては、言語と体験が重要視されています。言語と体験は、あらゆる教科等の学習の基礎・基盤をなすものであり、ひいては社会活動にも大きな影響を及ぼします。

体験の後に、気づいたことを整理したり、発表したりすることで、子どもたちは生きた言葉を身につけていきます。屋内活動に潜在する教育的な可能性を、皆さんと共に見出していただければと思います。

2 荒天下の野外活動

この情景を思い浮かべたとき、活動内容への期待よりも、けがや衣服の汚れなどの心配をする方が多いように思います。近年、保護者の教育姿勢が変容してきており、また、野外活動における事故も身近なものになってきました。その結果として、引率者が過剰に反応し、消極的な活動選択になっているのはやむを得ないことです。

しかし、保護者であれ、引率者であれ、誰もがその成長過程において、何らかの危険に遭遇したはずです。その具体的な場面で、危険回避の主体が自分自身であったからこそ、子どもたちの危険を察知できるのではないのでしょうか。何が危険であって、どう対処すべきかを子どもたちと学び合うことは、大人たちの重要な役割です。

未曾有の災害に見舞われた今なら、自然が人為の及ばないものであることは子どもたちにも分かります。自然を恐れながら暮らし、かけがえのない命と時代を引き継いでいく責任を、皆さんと共に果たしていただければと思います。

札幌市青少年山の家は、豊かな自然環境の下、あらゆる活動に言語と体験を意味づけ、共に生きる力の土台を養うための教育機関であり続けたいと思います。

7月実施事業より（ご報告）

平成23年度新規事業「幼保小連携事業なかよしキャンプ」が実施されました。

本事業は幼児（年長児）と小学5年生が同じグループで活動を行い、両者のふれあいを通して年長児には小学校への期待感を、5年生には高学年としての自覚とコミュニケーション能力を養う機会として実施をしています。

通年実施（4回）が予定されておりますが、7月10日（日）の第1回目では陶芸体験（カレー皿作り）と沢あそびを実施。沢あそびでは幼児も小学生のお兄さん・お姉さんも水生昆虫探しや沢ダムづくりに夢中になっていました。1回目から深い交流が図られた模様です。

*次回は9月11日（日）に実施の予定です。



〔7月の利用者アンケートより〕

- 山の家職員の方の児童への指導が、児童の自主・自発性を考えている。
- バイキング形式の食事は、子どもの食への意欲も高まり、自分で取った責任から食べる量も増えてとても良かった。
- 野牛山登山の事前踏査をしていただき、大変助かりました。
- ▲入浴時に他の団体も入浴していた。
→事前に時間の調整はしておりますので、時間内にお使いいただくように確認はしていましたが、今後このようなことがないように、事前説明を徹底していきます。
- ▲浴室に掃除用具を設置してほしい。
→浴室の清掃活動にもご協力いただきありがとうございます。今後はモップだけでなく、ほうき・ちりとりも設置いたします。

【植物豆知識：植物のネーミング②】

前号でネーミングの話をしました。今回は筆者の感懐談をひとつ。8月に主に沢沿いに花を咲かせる植物に『ミゾソバ』というものがあるのですが、筆者はてっきり『溝側』という意味だと思っていました（調べもせず）。ところがある日本当になんとな〜く調べてみたらこれが『溝蕎麦』であったことを知りました。

思い込みって怖いですね。ちなみに筆者はあまり大きな花を咲かせる植物よりも、このような奥ゆかしい花が好きです。



『ミゾソバ』



発行者：札幌市青少年山の家指定管理者 財)札幌市青少年女性活動協会
住所 〒005-0862 札幌市南区滝野247番地
電話 011-591-0303 FAX 011-591-0394
URL <http://www.sapporo-yamanoie.jp>